



石垣島ITUトライアスロンワールドカップ速報 井出が日本女子初となる優勝を遂げる

庭田は3位。石垣島で3度目の表彰台に

4月26日(日)、沖縄県石垣市の登野城漁港特設コースで、石垣島ITUトライアスロンワールドカップ／石垣島トライアスロンが開催された。日本のシーズン開幕戦であるとともに、今シーズンのワールドカップ2戦目。今年で14回目の歴史ある大会とあって、国内外から有力選手が集結。また、観客動員数も45,000人を数えるなど、人気の高さをうかがわせた。

午後1時15分スタートの女子は、中島千恵(トーションパートナーズ・チームケッズ)が積極的な泳ぎを見せ、先頭でスイムをフィニッシュしバイクへと移った。バイクでは井出樹里(トーションパートナーズ・チームケッズ)、崎本智子(日本食研)、庭田清美(アシックス・ザバス)、高木美里(レオパレス21)、中島、土橋茜子(トーションパートナーズ・チームケッズ)を含む11名が第1集団を形成。

5周回目までで14人となった第1集団は、そのままランへと突入。バイクで好位置をキープした井出が、得意のランで強さを見せた。1周目でトップを走るアインホア・ムルア(スペイン)をとらえると、庭田、ムルア、ケイシー・トレンブレイ(カナダ)らと集団を形成し、トップ争いを繰り広げた。

ランの最終周回で後ろを突き放した井出が、接戦を制して日本選手女子初となるワールドカップ優勝を達成。ランの最後まで前を追った庭田も、3位に入る健闘を見せた。

そのほかの日本選手の結果は、上田藍(シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター)9位、高木10位、崎本11位、足立真梨子(トーションパートナーズ・チームケッズ)12位、土橋13位、中島16位。

午後3時45分スタートの男子は、スイムからロシアのイワンとデニスのバシリエフ兄弟が積極的なレース展



ボンツーンから、女子のスイムスタート

井出 樹里

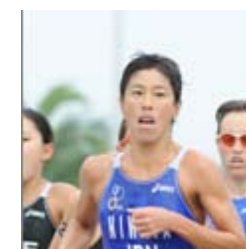
トーションパートナーズ・チームケッズ



レース自体に不安はなかった。ワールドカップでの初優勝よりも、信じてくれた監督やこれまで支えてくれた両親、いつもそばでサポートしてくれたスタッフ、同じ気持ちで突き進んでいる仲間や、自分を応援してくださる皆さんなど、多くの方々に「一番」にすることができて本当にうれしい。

庭田 清美

アシックス・ザバス



最後のランではあれ以上のスピードチェンジはできなかったけれど、怖がらずに「どんな結果でも構わない。できる限り引っ張ってみよう」という気持ちで走った。一人、途中で脱落してしまっただが、4人で競って結果として4位になっても悔いはないと思っていたので3位という結果はうれしい。

JTU Official Partners & Official Suppliers



開を見せる。

バイクに入ると、バシリエフ兄弟に、本大会で3連覇4勝を達成しているカートニー・アトキンソン、ジェームス・シア（ともにオーストラリア）、田山寛豪（NTT東日本・NTT西日本／流通経済大学職員）、ウラジミール・タルバエフスキー（ロシア）を加えた6人で第1集団を形成。終盤まで第2集団を寄せ付けなかった。

ランでは、第1集団から飛び出したカートニーとバシリエフ兄弟の3人で優勝が争われた。1周回目からトップに躍り出したカートニーが、2周回目で2位のデニス・バシリエフに25秒の差をつける。そのままトップを維持したカートニーが、今大会5度目の優勝を成し遂げた。2位にはイワン・バシリエフ、3位にはデニス・バシリエフがそれぞれ入った。田山は惜しくも6位となった。

そのほかの日本選手は、山本良介（トヨタ車体）14位、細田雄一（グリーンタワー・稲毛インター）17位、杉本宏樹（箕面スイミングスクール）20位、福井英朗（トヨタ車体）23位、山本淳一（稲毛インター）26位、平松幸紘（日本食研）32位、椿浩平（チームブレイブ）33位、佐藤治伸（日本食研）36位。

同日開催された石垣島トライアスロンでは、A組の男子が桑原寛次、女子が平井美雨がそれぞれトップでフィニッシュ。B組のリレーは、あららがま魂（塚田・下里・藤岡）が優勝。今年新設のAWAD部門で出場した廣道純（TDKラムダ）は2時間48分40秒でフィニッシュした。

なお、今回のレースの様子はフォトギャラリーでご覧になれます。



バイクで第1集団に入る田山



井出はランで強さを見せつけた

カートニー・アトキンソン オーストラリア



ロンドンに向けて良いレースになった。日本での5度目の優勝はとてもハッピーだ。バイクの1周目は手に力が入らなくて前に出られなかったが、2周目以降は積極的に攻めた。バシリエフ兄弟が好調だったので、ハードなレースになった。しかし、二人と競り合えたことは来週のトンヨンに向け、良い結果を生んだ。

田山 寛豪

NTT東日本・NTT西日本／流通経済大学職員



練習に新しい内容を取り入れたので、その仕上がりがどんな感じなのか予想が付かなかった。以前よりパワーがつき、ランではストライドを伸ばすことはできたのだが、バイクもランももっと試行錯誤すれば改善の余地があるはず。結果に満足せず、1週間後のトンヨン大会でも頑張りたい。

JTU Official Partners & Official Suppliers

